

第609号



喬木村公民館：長野県下伊那郡喬木村6664



発行日 2019年12月16日
発行責任者 喬木村公民館長 徹
編集責任者 公民館編集部 志
印刷 龍共印刷株式会社

令和元年度 第三回平和学習会
『コスタリカの奇跡』
上映会に参加して

コスタリカの奇跡は「一九四八年に軍隊を廃止。軍事予算を社会福祉に充て国民の幸福度を最大化する道を選んだコスタリカの奇跡に迫ったドキュメンタリー」映画です。

私が初めてこの映画を観たのは、昨年の夏でした。上映にあたって、「この映画の中で語られる言葉には、今私達が耳にしている日本の政治家の言葉とは違い、とても重みがあります。」という案内があったのを覚えています。

語られている言語はスペイン語なので字幕を追って鑑賞になりますが、今回も改めてその「言葉」を感じることができたように思います。心に素直に入ってくる言葉に、時に胸を熱くし、涙し、忘れていた何かを思い出し、気づかされ、勇気づけられました。

映画の冒頭で、アイゼンハワー米大統領の一九五三年の軍産複合体を批判する「平和に機会を」の演説が流れます。「銃を二丁作るのも、軍艦一隻の進水も、ロケット一基の発射も、盗みと同じである。飢えて凍える人々を無視して行うからだ。略々これは人の生き方ではない。人間性が試されている。今こそ国々が重大な決断を下さなければならぬ。正義」



と恒久平和を模索すべきだ。答えるべき問いがある。他に生きる道はないのか」と。

この問いが発せられる五年前にコスタリカは「別の道」を歩み始めていたことになり。スタートは一人の卓越した政治家、フィゲレス大統領の軍隊を解体し非武装を「制度化」したことでした。晩年のフィ

ゲレスはインタビューに答えてこう述べています。「軍隊は過去のものです。戦争は正常な状態ではありません。人にとつても地球にもです。戦争は病気で平和が普通なのです。健康になるため、原因を取り去るべきです。」

その後、七〇年間、コスタリカは決して平穏であり続けたわけではありませぬ。世界最大の武器輸出国であるアメリカは様々な形で揺さぶりをかけ、真の平和を望んではいません。時には政治権力は腐敗するも、志ある指導者が現れ、市民もその人を選挙で選びます。揺さぶられるから、考えざるを得ない環境にあることもあるでしょうが、教育や普段の暮らしを通して平和を愛し民主主義を大切にする姿勢が育まれている様子が映像に登場する市民の姿に見て取れます。この映画を作成した監督はこの

『コスタリカの奇跡』

『コスタリカの奇跡』

久保田 毅

『自然の中で』

昭和四十五年三月

『ぶぎな森』

『大陽の直射で、そのてり』

かえして、里のまは、ほんとなにたまらぬあつさでした。けれど、おさないものたちは、そうしたあつさも、べつに気にならぬのでした。遊ぶことにむちゅうで…セミやトンボをおつかけて、かけまわるのでした。そういう少年たちの集まる場所は、村の明神さまの境内でした。そこには、大きなイチヨウの木がありました。この明神さまは、阿島北の集会所から東に二〇〇mほど進んだところにあります。ここには、今もイチヨウの木が葉をしげらせ、そびえたっています。そのイチヨウの木にある伝説が書かれています。「…天狗になる修行をしている男があらまし



映画の主人公は誰か、という問いに「コスタリカ市民」と答えています。困難な時でも、再軍備は望まず、外交と国際的な枠組みの中で解決を模索する政治家を育て、選出、現在においては国際条約を積極的に批准しているコスタリカという国は、まさに市民が支えているのだと感じました。この国を、そしてコスタリカ市民を鏡にすると日本という国も私達自身も見えてくるものがある様に思います。私たちがまた「他に生きる道はないのか」と問われているのだと思いますが、それに答えるにあたって、すでに別の道を選択し続けているコスタリカの人々の語る言葉やその背景にあるものを感じ取ることは意義のあることだと思います。多くの人に見ていただきたい、そして繰り返し見たい映画でした。

た。草や木の葉を食べて、二年も三年も修行をつみました。そのうちに自分のからだかきゅうにかるくなり…空中をふーと、飛べそうな気になったのです。村の人々に明神さまのイチヨウの木の頂上から、天に飛びさるとつげました…」このさし絵にはそんな様子が描かれています。木の子がぺんに人がいますね。さあ、どうなったのでしょうか。また、明神さまのようすもくわしく書かれています。『…大きな木がふかぶかとしげっていたので、…夏のまじでも、なにかひえびえとしているのです。』こんな場所に、老人たちが、まごをつれたりして、むしろをしいてやすんでいます。『…大きな木がふかぶかとしげっていたので、…夏のまじでも、なにかひえびえとしているのです。』

『…天狗になる修行をしている男があらまし』

『…天狗になる修行をしている男があらまし』

『…天狗になる修行をしている男があらまし』

『…天狗になる修行をしている男があらまし』

『…天狗になる修行をしている男があらまし』

『…天狗になる修行をしている男があらまし』

『…天狗になる修行をしている男があらまし』

『…天狗になる修行をしている男があらまし』

広島平和のバス 運行事業報告会

喬木村総合文化祭の初日、十五日午後六時三〇分より中央社会体育館において、広島平和のバス運行事業の報告会が行われました。平成二十二年より一〇回にわたり、平和学習の一環として原爆の被爆地広島へ赴き、戦争の悲惨さと原子爆弾の破壊力を現地で学びました。本事業の一〇回目を節目として報告会を開きました。本年度参加した中学生から一般までの四十三名のうち三十三名が出席し、今回広島に行つて感じたこと、平和のためにできることをワークシヨップ形式で話し合いました。参加者は原爆ドームや広島平和記念資料館で見たいものや、平和記念式典に参列して体験したことなどから、自分なりに平和について考えたことを付箋紙に書き、グループ毎にまとめあげ、皆の前で発表しました。また、結団式の際に行つた事前学習会で、講師を務めていただいた飯田歴史研究所の田中雅孝先生にワークシヨップのまとめをしていただき、丸山教育長には一〇年間にわたる広島平和のバス運行事業の総括をしていただきました。最後に市瀬村長より講評をいただき閉会しました。



あの時

中学校部活動については様々な課題が挙げられている。先日、飯田市教育委員会は全市型クラブ、放課後部活動のオフ期間について提案されたことが新聞で報道された。また、八月には、県中学校体育連盟が二〇二一年度をめぐりに郡市大会を廃止する方針を固めたことも報じられた。いずれも教員の負担軽減や少子化への対応だ。

私も中学校長であった六年前部活動のオフ期間を提案し、職員の猛反対を受けたことがある。一年かけてその趣旨と効果を説明し、翌年、二から三週間の完全オフを実施した。プロや社会人、大学生などのスポーツは必ずオフ期間がある。しかし、中学生は四六時中部活動をやるのが当然、休むことは体力や技術の低下を招くと思われている。果たしてそうなのだろうか。一定期間のオフは心身をリフレッシュでき、次のシーズンに向けての意欲を高めたり、目標を明確にしたりする効果があると私は思っている。

昔の話だが、長野でサッカー部を指導していた時、曜日を完全休養日にしたり、冬場にオフ期間を三週間ほどを設け、一月末のフットサル大会前から次のシーズンをスタートさせたりしたことがある。休んだからといって成績が悪くなることは全くなく、むしろ翌年の好成績につながった。要は子どもにとってどうなのか(スチュウデント・ファースト)だと私は思う。

(館長)







赤ちゃんのようにべたんとおしりをつけて、両手でサワカニを食べていて、とてもかわいらしい様子です。

そんなほのぼのとした親子の時間が変えてしまいました。かりゅうと達が近づいて来たのです。それなのに子グマは、イタドリを芽を少し行つてもくぐもぐ、少し行つてもくぐもくと食べるのです。子グマは、全くきけんに気づいていません。一方母グマは、きけんを感じているので、気が気ではありません。私もかりゅうとが近づいてきているのを読み取り、「子グマよ。早くにげて。」とソワソワしました。

お母さんグマは、きけんなにおいがするほうに進んでいきました。きけんと反対方向にげれば、助かるかのうせいは高まるはずですが、でも、きけんに向かっていたのです。きけんがぐんぐん近づいてきて中、どうしたらいいかなど考えているひまはありません。それは、「子どもを守らなければならぬ」という母親の本のうが、そうさせたのだと思

います。その母親の本のうが書かれています。三びきの犬に度にかみつかれ、熱いようなたたみからだじゅうにつたわる中、お母さんグマが、二ひきの子グマのことを考えたという場面です。「死んではいけない。死んではいけない。本のがさげびました。お母さんグマは、きけんがせまうていても、気づくことなくエサを食べ続けてしまうような子グマをのこして、死ぬことなどできないのです。

人間の赤ちゃんも生まれる時は何もできず、親なしでは生きてはいけません。だから、人間の親も「子どもを守らなければならない」という本の本のうが、同じだと思

います。でも、ときに命をねらわれるという究極のきけんは、人間にはめつたにありません。一方の動物は、毎日そのようなきょうきょうの中で生きています。だから、「子どもを守らなければならない」という本の本のうが、人間の数倍強いと思

います。母親の強い気持ちと頭のよさで、きけんからにげることでできました。二人のかりゅうとにびかされるじょうきょうにまでなっていました。でも、お母さんグマは、かりゅうとにほえたただけで、とびかかるとはしませんでした。わたしは、「こんなひどいことをされたのに、なぜたおさないのだろうか。」と、ふしぎに思いました。でも、木からおりてきた子グマの頭を、ペロペロとなめてやりました。というところを読んだら、なるとくしました。きつと、相手に対する「いかり」や、「たおしたい」という気持ちより、子グマが助かったよるこびのほうが大きかったからだと思

**「アルプスのキジ」** ポプラ社

高森町立高森北小学校 六年

松 下 郁 果



痛さも感じさせないキジの姿。私の家の周りには、畑や田んぼが広がっています。その田んぼのあぜ道を、きれいな羽をゆらして、ゆうゆうと歩くキジをよく見かけます。時には「ケン」とかかん高く鳴く声も聞こえます。そんなキジの姿を思いうかべながらこの話を読み始めました。

痛さも感じさせないキジの姿。私の家の周りには、畑や田んぼが広がっています。その田んぼのあぜ道を、きれいな羽をゆらして、ゆうゆうと歩くキジをよく見かけます。時には「ケン」とかかん高く鳴く声も聞こえます。そんなキジの姿を思いうかべながらこの話を読み始めました。

「片耳の大シカ」 理論社

喬木村立喬木中学校 一年

羽 生 彩 華



片耳の大シカと呼ばれている。頭の大シカがいる。狩人のやり口をすっかり覚えていて、いつも群れを引きつれてうまく逃げてしまふやつだ。このお話は、美しく神秘的な屋久島の林が舞台。いつか屋久島に行つてみたいと思つている私は、もう屋久島を旅している気分になつてワクワクしながら読んだ。

片耳の大シカが呼ばれている。頭の大シカがいる。狩人のやり口をすっかり覚えていて、いつも群れを引きつれてうまく逃げてしまふやつだ。このお話は、美しく神秘的な屋久島の林が舞台。いつか屋久島に行つてみたいと思つている私は、もう屋久島を旅している気分になつてワクワクしながら読んだ。

シカ狩り名人の吉助おじさんとほくがシカ狩りに出かけた時、急に猛烈な冬の嵐がやってきました。山じゅうをゆさぶる風、たたきつける雨、鳴りひびくかみなり。片耳の大シカをがげぶちの上へ追いつめたつもりだったが、激しい寒さとおそろしきため、逆にほくたちが追いつめられてしまう。命の危険すら感じる目にあつたら、きつともう周りのことを考える余裕はなくなつてしまふやつだ。ほくたちは、自分の命を守ることに必死で片耳の大シカのことなど頭からなくなつてしまつたんだと思

シカ狩り名人の吉助おじさんとほくがシカ狩りに出かけた時、急に猛烈な冬の嵐がやってきました。山じゅうをゆさぶる風、たたきつける雨、鳴りひびくかみなり。片耳の大シカをがげぶちの上へ追いつめたつもりだったが、激しい寒さとおそろしきため、逆にほくたちが追いつめられてしまう。命の危険すら感じる目にあつたら、きつともう周りのことを考える余裕はなくなつてしまふやつだ。ほくたちは、自分の命を守ることに必死で片耳の大シカのことなど頭からなくなつてしまつたんだと思

はつと目を覚ますと、シカの群れはあの大シカの大シカを先頭にして静かに谷間へ下りて行く。片耳の大シカは、シカの群れを危険から守るだけでなく、敵である人間の命も守つたのだ。ほくたちが撃つのを止めたのは、命を助けてつたことへの感謝と、片耳の大シカの賢く堂々とした姿に、やつにはかなわぬ、と思つたからだろう。屋久島では古来より山岳に神々が宿ると信じられ

はつと目を覚ますと、シカの群れはあの大シカの大シカを先頭にして静かに谷間へ下りて行く。片耳の大シカは、シカの群れを危険から守るだけでなく、敵である人間の命も守つたのだ。ほくたちが撃つのを止めたのは、命を助けてつたことへの感謝と、片耳の大シカの賢く堂々とした姿に、やつにはかなわぬ、と思つたからだろう。屋久島では古来より山岳に神々が宿ると信じられ

**「ゾウのたび」** 小峰書店

喬木村立喬木第一小学校 二年

下 岡 ゆうか



やさしい心をもつたゾウ「ゾウのたび」を読んで心にのこつたことがあります。この場めんでは、「それでも、ゾウのむねは、しんぼうよく、どこまでも、どこまでも、歩いていくのでした。」というところが心にのこりました。

「ゾウのたび」を読んで、水をさがして長いたびをしたゾウが、ぬまちを見つけて水をたくさんむことができたのに、かりゅうとにうたれてかわいそうだと思います。それと、年とつたゾウが、なまをまもるために、自分だけでかりゅうとたたかつて、年とつたゾウはやさしい心をもっているんだと思

「ゾウのたび」を読んで心にのこつたことがあります。この場めんでは、「それでも、ゾウのむねは、しんぼうよく、どこまでも、どこまでも、歩いていくのでした。」というところが心にのこりました。

「ゾウのたび」を読んで、水をさがして長いたびをしたゾウが、ぬまちを見つけて水をたくさんむことができたのに、かりゅうとにうたれてかわいそうだと思います。それと、年とつたゾウが、なまをまもるために、自分だけでかりゅうとたたかつて、年とつたゾウはやさしい心をもっているんだと思

どうしてかという、年とつたゾウが、てっぽうでうたれてしまつたのに、なんと思

「ゾウのたび」を読んで、水をさがして長いたびをしたゾウが、ぬまちを見つけて水をたくさんむことができたのに、かりゅうとにうたれてかわいそうだと思います。それと、年とつたゾウが、なまをまもるために、自分だけでかりゅうとたたかつて、年とつたゾウはやさしい心をもっているんだと思



十鳥祭 小川佳華さんの発表



# 田中節山書展

## 「田中節山書展」によせて

この度、十一月十六・十七日の村の文化祭に合わせ、同年有志の仲間（さわやかイレブン）で田中節山先生に個展を懇願しましたところ、快くお引き受け頂くことが出来ました。その後先生には数回の来村頂中、骨子を固め、総ての印刷物及び諸道具等準備下さり傘寿記念・ふるさと



中央社会体育館で子供さんに大きな字を書かせました。高学年の生徒にはやさしい眼差しで接し「伸び伸びと書けたね」と褒め、低学年の子供が毛氈に登る時スリッパを丁寧に揃えた様子を見て、私に小声で、この子は真浄寺で習字を習っていて永井和尚さんが「書ばかりでなく常日頃の躰を教えられていたからだ」と話して下さいました。その後田中先生が太い筆に墨を含ませ大きな白紙に向かわれ、光鋭く揮毫されると周囲の人々から「ウォー」という歓声が起こりました。それは素晴らしい「書」でした。午後は椋鳩十記念館に移り先生がご持参頂いた沢山の団扇に、永井和尚さんや先生のお弟子さんが指導する中子供たちが親御さんが思い思いの字を書きました。それら

作品は参加者の皆さんのよき宝物に成った事と思います。翌十七日は椋鳩十記念館に多くの方々にお集まり頂き、先生が一点丁寧に書体をはじめ、その書に寄せる気持を説明され来館者の顔色が広がり両日とも良きセレモニーになりました。これらは偏に村の絶大な後援、特に教育委員会また椋鳩十記念館の皆様のお骨折りに深く感謝すると同時に奥様（書道家号珠光）及び何回も御遠路のところ来村いただきお手伝い下さった御息様にも心から感謝申し上げます。この展覧会を通して改めて先生の偉大さを感じると共に同郷である私たちにとても誇りに思いました。先生には今後益々の御研鑽と御自愛を願ひあげ、有難う御座いましたと御礼を申し上げます。

田中節山書展実行委員会 吉澤武彦記

第三〇回喬木村駅伝大会が十一月三日（日）に行われ、喬木中学校野球部のメンバーで構成されたマテンドウシューターとして、全ムまで幅広い年齢層で、全二十三チームが参加しました。また、今年も静岡県磐田市竜洋地区から友好町村会となりました。



総合優勝のマテンドウシューター

## 第30回 喬木村駅伝大会

ことができました。総合優勝は、喬木中学校野球部のメンバーで構成されたマテンドウシューターでした。多くの声援が飛び交う中、つなげられたすき。皆が一つになり、とても清々しい大会となりました。

### 総合優勝 マテンドウシューター 記録1:00:29

- 一般男子の部（※）
    - 1位 信州物産とゆかいな仲間達 記録1:03:42
    - 2位 Let's go 慰労会 記録1:04:30
    - 3位 伊藤製菓有限会社A 記録1:05:24
  - 一般女子の部
    - 1位 TKG OLD GIRL'S 記録 1:28:19
  - 中学男子の部
    - 1位 マテンドウシューター 記録 1:00:29
    - 2位 喬木中学校 サッカー部 記録 1:02:06
    - 3位 赤フレーム DAICHANS 記録 1:12:32
  - 小学生男子の部
    - 1位 喬木アレグリ5年 記録 1:10:56
- ※一般男子の部の順位に訂正がありました。

## 編集後記

いよいよ柿詰めが始まりました。天気や寒さに恵まれていい具合に粉が来た。最近では詰め方もなかなか厳しく、出荷してもいくつ戻ってきてしまうことがある。ひとつづつ丁寧丁寧、手間のかかる市田柿である。仕事の合間にしか手伝えないからこの作業が四週間ほど続く。父と二人きり、たまに助っ人のわずかなワンチームでなんとか頑張らないと。いいお正月が来ますように。

## 令和元年 今年の村のニュース

### 田中節山さん来村 初の展覧会

喬木村伊久間出身で、現在は東京を拠点にご活躍されている書家の田中節山氏が、椋鳩十記念館で「傘寿記念 田中節山書展」開催のため来村しました。

### 各種スポーツ 激励会行われる

本年度は六月の少年野球県大会出場をはじめ、四団体三選手の激励会を行いました。今後の喬木村出身者のスポーツに目が離せません。



弓道国体出場 木下さん



県大会出場 喬木少年野球クラブ

## 喬木俳句会 霜月句会詠草

稽田や落日に立つひとり影  
いつしかに大根刻む数え癖

西元くにこ

蕪菜漬け香りゆたかに包む夜気  
秋の旅終えし鞆に夕日濃し

市橋 ヨリ

首里城の天守ふたたび夢冴ゆる  
御列を待つ人の群れ秋うらら

田中 君子

朝霧や浮絵となりし里に住む  
柿干して寡黙なふたり夕日陰

村山たか子

ラグビーが少し解りし老いの床  
お返しのはうれん草に紅少し

秦 恭子

野分あと溝蕎麦の紅ひかりけり  
冬の朝いまま背中にも母の声

松葉 孝子

山の端につるべ落としの子等の声  
柿すだれ我が家訪ふ人揺らしゆく

原 美恵

猫となり我が身舐めたき秋日和  
孤独また一つの力冬木立

吉川てる子

## 公民館報六〇〇号

公民館報が今年三月号をもって六〇〇号を迎えました。昭和二十八年八月一日に発行されて以来、六十六年間毎月発行されてきました。これからも村政から地域の出来事まで地域の発展のため、編集していきます。

